



ありがとうございました

- 株式会社ワイズマート代表取締役社長吉野秀行様から、一般寄附金として20万円を寄付いただきました。
- 「児童福祉のために役立ててください」と、八千代ライオンズクラブ様よりユランコやビーンズバッグセットなどの玩具を、ボランティアグループYACHIROCK様よりトランポリンやピアノマットなどの玩具を寄贈いただきました。子どもたちのために活用させていただきます。

天候の順調と平穏な作柄を祈願して 高津のハツカビシヤ

1月20日に高津比咩神社で八千代市指定文化財に指定されている高津のハツカビシヤが行われました。天候の順調を願い、平穏な作柄を祈願する農耕儀礼と言われ、「甲乙ム(こうおつなし)」と描かれた的に矢を射ます。射られた矢は無病息災のお守りになるとされています。現在、市内ではほかに矢を射る神事が行われているのは、同じく指定文化財の諏訪神社の「高津新田のカラスピシヤ」です。



▲的は直径90cmほどに竹を籐目に編んで半紙を貼ったもの

東京オリンピック金メダリストの宇山賢さんらが睦小学校を訪問 日本フェンシング協会による学校訪問プロジェクト

千葉県と公益社団法人日本フェンシング協会は、東京2020オリンピック競技大会の県内開催競技となったフェンシングについて、普及を目的とした基本協定に基づく取り組み「日本フェンシング協会による学校訪問プロジェクト」を実施しています。今年度は、睦小学校が開催校に選ばれ、1月28日に学校訪問が行われました。講師は、東京2020オリンピックフェンシング(男子エペ団体)金メダリストの宇山賢さん、デモ選手は慶応義塾大学所属の高橋未楽選手と法政大学所属の安井琥珀選手が務め、競技と魅力を紹介しました。現役選手同士のデモンストレーションを見たり、スマートフェンシングという柔軟性のある剣と導電性のあるジャケットを使用し競技を体験しました。最後には、スマートフェンシングを用いて、代表児童と現役選手によるチャレンジマッチが行われま

した。声援が送られる中、児童がポイントを取ると、大きな歓声が沸き起こりました。宇山さんは「子どもたちの元気な声を聞いてエネルギーを感じました。オリンピック選手というものを身近に感じてもらえたら嬉しいです」、参加した児童は「初めてフェンシングをしてとても楽しかった。もっとフェンシングに触れてみたいです」とコメントしました。



▲講師の宇山賢さん



▲児童が現役選手に挑戦するチャレンジマッチ

「生きたい」という強い意志を込めた絵やメッセージ いのちの輝き展が開催

1月7日から28日の期間、市役所1階で千葉骨髄バンク推進連絡会主催のいのちの輝き展が開催されました。会場には、白血病などの病と闘いながらも「生きたい」という強い意志を絵やメッセージに込めた子どもたちの作品や、骨髄移植を受けた患者さんやドナーの体験談などが展示されました。また、各図書館では、引き続き関連図書を展示しています。2月16日(日)~3月1日(土)は八千代台図書館、3月4日(火)~15日(土)は大和田図書館、3月18日(火)~29日(土)は勝田台図書館です。ぜひ足をお運びください。

本市では、骨髄移植を必要とする多くの患者さんに移植の機会が増えるよう、骨髄移植ドナー支援事業を行っています。ドナー及びドナーが勤めている事業所に対し助成金を交付します。詳しくは、右のコードからご確認ください。



▲いのちについて考える機会に

市民伝言板

- 家庭倫理講演会 テーマ「輝く人生」世代を超えて。2月22日(土)午前10時から、勝田台文化センター。500円。家庭倫理の会八千代市・平野☎080-5425-9293
- 健康講座「脳卒中予防と治療」講師・八千代医療センター脳神経外科診療科長石黒太一先生。3月2日(日)午後1時30分開場、緑が丘公民館。医療センターを支援する市民の会、市社協協議会・緑が丘支会共催、緑が丘長寿会協賛。坂本☎487-4166

リサイクル・ガイド 消費生活センター☎483-1151(代表)

- 受け付けは、午前9時~正午、午後1時~5時(土曜・日曜日、祝日は休所)。市内在住の人が対象です。企業・営利団体は利用できません。
- 【ゆずります・無料】換気扇フィルター(5枚)/25cm
- 上記の他に、市役所1階ロビー掲示板・市ホームページでもリサイクル品情報を紹介しています。

ミニ・ガイド

■千葉県バス会社合同就職説明会&運転体験会 千葉県主催でバス運転手専門の合同就職説明会&運転体験会を開催します。県内のバス会社が多数集結し、会社ごとの特徴や仕事内容について、直接話を聞ける機会です。未経験者も大歓迎。3月15日(土)午前11時から、幕張メッセ国際展示場。参加費無料。千葉県総合企画部交通部

計画課企画調整室☎043-223-2063

■精神障害者家族 対話と交流の会 精神障害者を身内に持つ家族を対象。「障がいをもつ子供達と共に」をテーマに障害者就業・生活支援センターあかね園のご父兄を囲んで懇話会を開催します。2月27日(木)午後1時30分~4時、プラッツ習志野(習志野中央公民館)北館集会室1。申し込みは、電話かファクスで習志野八千代心の健康を守る会・渡邊☎453-6760へ。

短歌

鶴岡 美代子選

かると秋の陽さしにバツとぶおいの歩幅を横目にかわし
 (村 上) 新井 豊子
 宵しめく医者の説明聞き終へて家路迎れば秋の蝶舞ふ
 (大 和 田) 井上 正則
 白内障の手術を受けて今少し知らざりしこと新たに知りたし
 (下 市 場) 村越喜美子
 日米の決勝シリーズテレビにて即時見らるることに感謝す
 (大 和 田) 紺野 正勝
 弟の見舞いと母の十七回忌故郷遠く何年振りか
 (勝 田 台) 浅岡 弘子
 草の中に捨てられている銀杏を思はず声をひそめて拾ふ
 (八千代台東) 伊藤 浩子
 街路樹の大木となり年の暮れ枝払われてモアイ像のごと
 (勝 田 台) 杉本美恵子
 朝焼けに染まりし富士の凜として凍てし湖畔に白鳥の見ゆ
 (村 上 団 地) 菅野 紀子

選評

一首目、秋になって弱っているバツタにさえ、憐れま悲しさである。とはいえ、相手はバツタ、やや滑稽でもある。二首目、医師の説明の折節、不安をおぼえた作者にとって、懸命に舞う秋の蝶は、励ましにも救いにもなったに違いない。三首目、白内障から老齢と知るが、前向きな姿勢が素晴らしい。

川柳

八千代川柳連盟選

厚着して医者も手伝う腕まくり 大和田新田 羽村田 廣
 ゴシツプが飯より好きなランチ会 村 上 佐藤 昌平
 逆光線の温み気付かぬ反抗期 勝 田 台 福島 つぐ
 行き先が怪しくなった地球号 勝 田 台 伊藤 良江
 再会を誓う車窓の冬帽子 ゆりのき台 石田 らく
 いつからか鳴らなくなった腹時計 緑が丘 川崎 謙
 ヘディングでゴールを決めて立ち眩み 村上団地 阿部ちえこ
 Uターン待ってますよと過疎の村 萱 田 町 田中まこと

俳句

村上 喜代子選

ぐつぐつと煮物の音と虎落笛 米本団地 唐澤 菊枝
 寄付つる映像の眼や年つまる 勝 田 草野 純子
 走り根の凍つる大地を掴みをり 上 高 野 吉田 一朗
 軒下の朱の艶やかに唐辛子 八千代台北 加藤 寛昭
 五十代カウントダウンに年惜しむ 米本団地 西川真由美
 落葉てふ過去の切れ端色いろいろ 緑が丘 藤枝 昌文
 モビールの揺れて冬日が踊り出す 勝田台北 一條 修子
 にしん蕎麦食うて始まる冬の旅 村上 岩井 光子